

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 東の広場
(ユニット名)	Aユニット・さくら
所在地 (県・市町村名)	福島県白河市東釜子字枇杷山66番地5
記入者名 (管理者)	原 登美恵
記入日	平成 19年 2月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(   部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

  

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念はすでに作られている。基本理念5項目</p>	<p>○</p> <p>「常に念頭におき、介護にあたり、実践していかなければいけない」と思う。 地域密着型サービスとしての理念として、現在の理念は適当か、考えなおしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフルームの見やすい所に掲示されており、いつでも、誰でも見ることができる。日常的には、声を出して読み上げたりはしていないが、利用者の方々と接していく上で、職員各自、大変必要であると理解できていると思う。</p>	<p>立場や経験に関わらず、職員一人ひとりが、理念の存在・中身を知り、日々の利用者に対する姿勢を再確認していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族や地域の方々との交流の中で、認知症の方々や地域の中で、暮らし続けることの大切さを伝えてはいるが、どのくらい浸透しているか疑問である。</p>	<p>○</p> <p>家族や地域の方々との交流の中で、「地域の中の、グループホーム」として、地域密着のサービスとしての理念内容を、理解してもらえるよう努力したい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的には、近隣の方々と、こちらから進んで挨拶するようにしている。地域の奉仕作業には、毎回、必ず参加している。常連で、立ち寄られる近所の高齢者はいるが、日中はどの家の方々も、会社勤めなどで留守がちなことあり、気軽に立ち寄られる人はあまりいない。</p>	<p>継続して、隣近所とのつきあいをしていく。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会には、地域の一員として、会合や奉仕作業に参加している。また、市の文化祭・敬老会などにも、出来る範囲で参加している。</p>	<p>利用者の気持ちや考えを尊重し、出来る範囲で、これからも交流していきたい。 また、地域への、情報提供もしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域に根付いた事業所となるよう、努力している。</p>	○	<p>グループホームを利用している、関係している方だけに限らず、介護や認知症に対する疑問や心配ごとなどがあつた時には、気軽に相談できるように、近所の方や見学者などに話している。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>評価の意義については、理解できている。「サービスの質の向上」と、理解している。</p>		<p>職員全体で、具体的改善に取り組んでいかなければならない。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>定期的に運営推進会議はおこなわれている。委員の方々には、グループホームの特色や存在、現況を理解してもらえよう、報告や話し合いをしている。</p>		<p>認知症に対する専門的な知識やグループホームに対する理解を深めてもらい、サービスの向上に活かせるような意見やアドバイスを頂きたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>努力はしている。</p>	○	<p>運営や現場の実情を積極的に伝えられる機会を作りたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>現在、権利擁護事業に関する利用者はいないが、相談を受けたことがあつた。その他、必要によっては、活用できるよう支援している。</p>		<p>管理者ばかりでなく、職員にも知識を深めていってほしい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>常に「この行為は、虐待ではないか？」ということ、念頭に置き、支援している。研修等へ参加し、防止に努めている。</p>		<p>行動はもちろんだが、言葉遣いにも、相手が傷つかないように十分配慮していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>何でも話せるような、「信頼関係」を築き、本人や家族の意向を尊重した介護ができるよう努力していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>必ずしも十分な対応が出来ているとは、思えないため、利用者一人ひとりの思いや要求、考えを傾聴する機会を設けていきたい。 時間的余裕がないのが、現状である。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>家族より、「生活の様子が分かるので、毎月、楽しみです。」との意見をもらう、継続していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族の来所時には、職員から、積極的に対応し、会話にでてきた意見や不満、苦情などを聞き逃さず、真摯に受け止め、それを全職員との協議によって、改善・反映していく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>運営者が同席できる機会を設け、職員の率直な意見や提案を聞いてもらえる機会を、是非設けたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>職員同士の信頼関係やコミュニケーションを大切にし、「困った時は互いに助け合う気持ち」を育みたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>配慮している。継続していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や内部での研修の機会があれば、勧んで受けるよう機会を確保している。		勤務時間や人員面で、限られてしまうが、職員が公平に研修に出られる機会を多く持つよう努力している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時間や機会があれば、取り入れていきたい。	○	県のグループホーム連絡協議会等で、職員の交流はあるが、ネットワークづくりや相互訪問などの活動も行い、サービスの質の向上を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスが溜まるばかりで、取り組みはされていない。	○	軽減の必要性は、大変感じるのだが、人員の問題、シフト制の問題があり、なかなか解決に至らないのが現状。今後の課題。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者に対して、管理者を通じて報告はしている。	○	各自、向上心を持って働くことが出来るよう、いろいろな面で努力・バックアップしていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、一人ひとりのライフスタイルを重視しながらも、グループホームのペースに合わせ、利用者・職員といっしょにふれあえる時間や楽しく談話できる時間、協力しながら仕事をこなせるよう、支援している。不安を取り除き、安心して過ごせるよう支援している。		利用者を尊重した介護に努め、その中から、よりその利用者の望む生活の支援を探り出したいと考えている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者との信頼関係を築くことが、一番大切であると考えている。		利用者本人の要望を聞くことも大切であるが、利用者に対する家族の思いを汲み取り、一緒に悩み、考え、泣き、喜び支援している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも自由に面会ができること、行事・外出などの、家族への参加を求めることによって、本人と家族がふれあう時間を設けるようにしている。		面会時は、居室などを利用し、家族水入らずで、ゆっくり過ごせる時間を提供できるように努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所・面会された場合は、本人の希望に添った時間を過ごしてもらい、馴染みの場所に行きたい、人に会いたいという要望があれば、本人と一緒に掛けていき、関係が途切れないようにしている。		本人の気持ちを尊重し、一度いちどの「うれしい、なつかしい」と感じる気持ちを、大切に支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	趣味、楽しみ、ゲーム等を通して、支援している。利用者間の関わりの中で、職員がクッションになり、良好な関係が保持できるよう支援している。		利用者間の人間関係について、十分配慮し、より良いコミュニケーションが図れるよう支援していく。皆が楽しいと感じる雰囲気作りを目指す。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅に帰った利用者や、病院や他の施設に人所された利用者に対して、手紙や年賀状等を利用し、つきあいをしている。		継続していく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面接などで、本人(家族も交えて)と、話をし、希望や意向の把握に努めている。また、入所後も、時々、本人と職員がゆっくり話せる機会を設け、本人の思いや意向の把握に努めている。		利用者が遠慮せず、自由に希望・要望が話せる環境をつくる。例えば、「利用者より話を聞く会」という機会を設けるなども、考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・実態調査票等をもとに把握に努めている。		継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録などに記録し、現状を総合的に把握するよう努めている。		ケアプランに添った具体的支援方法をよく検討し、本人に対する介護を改善していく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がグループホームで、より良く生活していくための課題とケアを、本人、家族、対応する職員等と話し合い、意見を反映して計画を作成している。	○	本人の視点に立ったその人らしく暮らしつづけるための、本人の気持ちを尊重した介護計画となるよう支援していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合、本人が、より良く生活していくための課題とケアを、本人、家族、対応する職員等と話し合い、意見を反映して現状に即し計画を作成している。		変化が生じた場合でも、利用者本人、家族等と話し合い、臨機応変に介護計画を作成していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録などに記録し、現状を総合的に把握し、情報を職員間で共有し、実践に活かしている。		記録は、できるだけ、アプローチと結果の記録に努めたい。 情報を共有することによって、話し合い、より良い介護計画の見直しが出来ると考える。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各行事・防災訓練・職場体験学習・運営推進会議など、積極的に協働している。		多くの地域の方々の支援を受けながら、地域に根ざしたグループホームを目指す。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自宅に戻られたり、介護施設へ転居される場合など、より良い介護を提供するため、連絡を取り対応している。		外出等を頻繁に希望される方には、移送サービスなどの利用を支援してはどうかと考える。 サービス機関の情報提供。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護予防認知症対応型共同生活介護の面では、以前より、支援をもらっている。		今後も地域包括センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営主体が、医療法人であり、日常的・緊急時においても、適切な医療が受けられる体制は、整っている。		専門的な医療(歯科・眼科・耳鼻科等)に対しても、通院治療を受けている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>運営主体が、医療法人であり、認知症に詳しい医師が主治医となっている。</p>		主治医の指示により、定期的に認知症状に対する療法にも取り組んでいる。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>日常的健康管理や医療活用の支援をもらっている。</p>		継続して協働していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>担当者及び管理者等が、入院していた病院に出向き、心身の状態・身体の回復の様子を、直接病院担当者と会い、経過・今後の介護に対する注意点等を聞き、対応できるよう努めている。</p>		長期入院・短期入院など必要に応じて、医療機関や家族との話し合いを持ち、利用者に不安な気持ちを持たせぬよう、心がけている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>主治医一家族間との連絡、話し合いについても行われ、その方向性については、職員間でも共有されている。</p>		今後も終末期のあり方についての話し合いを続けていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>ターミナルや看取りについて、グループホーム全体で、または各自で、勉強している。主治医一家族間と、その方向性については、職員間でも共有され、本人や家族の気持ちを尊重し、支援している。</p>		終末期に対する知識や技術を向上させることで、その時に冷静に対応できるよう備えておきたい。介護面において、本人に対して出来るだけの支援が行なえるよう、努力していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>以前、別の施設から、転居された方に対しては、当グループホーム入所を決める前から、「近所の家に遊びに行く」という感覚で、2～3回、見学にきてもらった。本入所の際は、何となく来たような所として、認識されたようで、住み替えによるダメージは、ほとんど感じられなかった。</p>		転出にあたっては、利用者、個々の性格や生活歴を記載した書類などを、先方に提供し、本人に一番適当と思われる介護を継続するため支援を行なっている。(家族に確認をとってから行なう。)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一個人の人格を尊重した言動を心掛けている。プライバシーの保護・個人情報の取り扱いには、十分注意をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望と健康面からの支援とが、平行線をたどってしまう時など、支援が困難な時もある。自己決定に委ねてもよいのだろうかと考えてしまうことがある。	基本的には、自己決定を重視しているが、認知症の進行により、なかなか判断がつかない時は、ある程度の選択肢を提示し、本人が判断、納得しやすい方向付けをしながら支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ちょっとまってください」という言葉が時々でてしまう。気分が乗らない時は、時間をおいてから、再度声を掛けるなどのその利用者のペースにあった支援をしている。	利用者のペースに合わせた支援を提供できるよう努力する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に応じ、期間を置かず理美容を受けられるよう、支援している。本人の好みに合った洋服等の買い物にも本人と一緒に出かけている。	行事や外出などには、身だしなみやおしゃれをして出かけるように支援している。本人の意思を尊重し、対応している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望のメニューを取り入れて、献立を作成するように、心掛けている。調理・準備・片付けなども、利用者の出来る範囲で行なってもらうようにしている。	外食を希望する利用者がある。行事などで、外食する機会もあるが、これまでの生活習慣からか、こだわりの店屋物などを頻繁に希望される。職員も出来る範囲で対応するが、難しいところもあるため、利用者家族に話し、「家族で食事に出かける」という機会を設けてもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒や喫煙など、特に禁止という規制はないが、要望はない。おやつやコーヒー等の嗜好品については、家族が好みの物を持参されたり、職員と一緒に買い物にでかけ購入し、提供している。	全部、本人任せにしてしまうと、食べ過ぎてしまうなどの、問題が出てくる。本人に話し、納得した上で、職員の方で管理するなどの対応策を取っている。場合によっては、本人の健康上の問題(持病)もあり、ある程度の制限も必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介助が必要な利用者に対しては、定期的な時間に誘導し、気持ちよい排泄を心掛けている。寝たきり状態の利用者に対しても、定時の排泄介助のほか、一人ひとりの状況に合わせた介助を臨機応変に行なっている。		声掛け支援の必要な利用者には、十分配慮して「気持ちよい排泄」を配慮していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当グループホームには、現在1つの浴室浴槽がある。出来るだけ、利用者本人の希望に添った入浴を提供したいと考えるが、1日に入浴できる人数が限られてしまうのが現状である。	○	一人ひとりの希望を取り入れ、かつ、効率的に入浴できるよう、職員の勤務形態・入浴の時間帯など、検討し支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室や和室を利用し、自分のペースに合わせた休息のじかんを設けている。気分良く休むため、寝具類の調節。居室の温度管理、布団干しなどにも配慮している。		安眠を誘導する観点から、本人のペースを尊重しながらも、1日のうちに「動と静のリズム」をつくり、心地よく休める工夫をしている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合ったいろいろな支援をしている。例えば、女性であれば、家事の手伝い等の支援、特技を活かした分野での物作り等の支援などがある。また、レクリエーション等を使い皆で楽しめるゲームへの参加、買い物やドライブへの誘いなども行なっている。		面倒くさがり、「何もしたくない」と話す利用者に対して、興味や面白さを伝えられる機会を増やしていきたいと考えている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者に関しては、家族に確認した上で、金銭を所持し、使用している。その場合、「どこかへしまい忘れた」「あの人に盗まれた」などの、トラブルを避けるため、最小限でお願いしている。		継続して、支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望・要望があれば、必ず職員が付き添い、支援している。		職員が対応できない場合は、他のサービスの利用も考えてはどうかという案もある。
	○普段行けない場所への外出支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している 行事(花見・遠足・紅葉狩りなど)の際、利用者に行きたい場所を挙げてもらい、出来る限り、それに添えるよう支援している。		小旅行の計画も、利用者と職員で一緒におこなってみたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者専用の電話はない。 電話などは、その都度取次ぎ、本人からも気兼ねなく、かけられるよう支援している。手紙についても、同様。		電話・手紙・面会等の少ない利用者に対して、精神面でのケアが出来るよう心掛けている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どこに客を通すか、本人に任せ、お茶やお菓子なども提供し、「客を接待するうれしさ」を味わってもらっている。		和室の活用。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしない支援」を行なっている。どうしてもしなければならぬ場合は、当グループホームの手順に則って、家族の同意のもと、行なっている。		安全対策のため、どうしても拘束が必要な場合、書類を作成し、同意を得て行なうが、その際、利用者の状態に変化を記録し、拘束時間の短縮・取り外しに向けての取り組みを行なっている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初より、夜間(就寝中)以外は、玄関の鍵はかけていない。 居室に関しては、本人の長い習慣から、「鍵をかけないと不安」な利用者に対しては、特に制限はない。		玄関には、外部徘徊に、いち早く気付くようにする(危険防止)ため、開放時音が出るチャイムを設置している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間での連絡・報告などで、利用者のその日の状態(精神面など)を把握し、また、常に気配り、目配りをしながら、所在の確認、移動介助等の業務にあたっている。		事故防止のため、より一層の注意が必要である。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に注意しなければならない薬品や洗剤、刃物などは、職員が管理しているが、本人の持ち物については、危険が大きいものでなければ、職員が時々確認する程度で所持している。		認知症の進行状況によって、危険と判断される場合は、本人・家族に話し、納得の上で対処していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の健康状態、全身状態を常に把握するよう努めている。また、職員間での連絡・相談・話し合いも随時行ない、事故を未然に防ぐよう努力している。		研修会等で、繰り返し身に付けていきたい。慣れや過信をせず、個々に配慮した十分な対応が、これからも必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の消防署員や医師・看護師から、指導は受けているが、1年に1度程度である。また、新入職員に対しては、入職時には行っていない。		急変や事故発生時に備えて、勉強会など行なっているが、いつ起こるか分からないので、その時に冷静に対応できるように、繰り返し、定期的な訓練をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力で、春・秋2回防災訓練を行なっている。また、自治会等の地域の防災訓練にも参加し、地域の人々への災害時の協力を働きかけている。		課題として、「夜間時の防災訓練の実施を行ないたい」と考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への1ヶ月の報告(手紙)や来所時の連絡報告などで、今後考えられるリスクなどを、介護の分野から、話している。		高齢であり、持病がある利用者が多いため、医療の分野での話し合い(終末期など)の必要性は感じている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の業務において、職員間で様子の変化等の、引継ぎや情報交換、バイタルチェックをこまめに行うなどし、早期発見に努めている。変化があった場合は、直ちに医療機関に報告し、指示を仰ぐ。		高齢者は、体力的にも弱いので、少しの変化も見逃さないよう、早期発見に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自、利用者の一人ひとりに対して、薬について(効用・目的など)の知識や意識をもって服薬するよう努めているが。		服薬後の症状の変化については、その都度、医師・薬剤師に報告するようにしている。研修等を通じて、薬の基礎知識等を学びたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	健康の土台である食事内容を、重視し、場合によっては乳製品などの提供も行なっている。また、運動量や一日の水分の摂取量を記録把握し、予防や対応に役立てている。		油断していると、便秘になってしまう利用者が多い。毎日繰り返し対応を行なっていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日朝・晩2回歯磨きを行なっている。自力では、出来ない利用者に対しては、口腔ケアを実施している。		一人ひとりにあったケアを心掛けた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は介護記録やホワイトボード等を利用し、状態を把握している。しかし、職員間に個々の利用者の健康状態など、意識に偏りがあり、徹底していないのが現状。	○	利用者個々の、問題点を重視する食生活になるよう、知識や技術の向上に努めたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルや予防委員会を立ち上げ、感染症に対する基礎知識や事例、対応策など検討し実行している。また、研修会等も行い、自己防衛策なども検討している。		感染症の種類によつての流行の時期などを知り、早めに予防策を講じ、対応していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、なるべく買い置きはせず、その都度、発注し使用している。また、調理用具については、ハイター等の漂白剤に浸し、定期的に消毒している。		継続して管理していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、一般の家庭と同じように花や植木を植えて、違和感のないような工夫をしている。夜間も照明器具などを使用し、明るい雰囲気にしている。建物周辺も、果樹・花木・芝生など植えてあり、心地よく過ごせる環境整備を心掛けている。		コンクリート作りで硬いイメージがあるので、温かい家の雰囲気が伝わるよう、もっと工夫が必要だと思う。周辺の掃除や整備など、気を配るようになりたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔感があり、落ち着いた雰囲気になるよう工夫をしている。季節や行事など季節感を感じさせる工夫も取り入れている。また、トイレなど汚れやすい場所は、その都度清掃し、気持ちよく使用できるよう配慮している。		継続して配慮していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキやたたみの和室、廊下の椅子など利用し、一人の時間や利用者同士のくつろぎの時間を保障している。		一人ひとりの時間を保障しながらも、所在や状況を把握するようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にそれぞれの馴染みのものを持参してもらい、今までの生活空間から、かけ離れた居室にならないよう、落ち着いた居室であるよう工夫している。	○	原則として、本人、家族と相談し、自由に使用できるようになっている。安全で安心して生活できるよう配慮している。居室には収納スペースがないため、オムツがむき出し状態にあるところがある。プライバシーの観点からも、改善すべきであると思われる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には、エアコン・換気扇など設置されている。また、温度計なども設置されており、温度調節はこまめに行なっている。また、利用者によっては、加湿器を使用し、乾燥対策も行なっている。		季節・天候・気温・体調などを考慮し、臨機応変に対応していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろん、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫されている。		高齢者には、少しの段差や障害物も転倒の原因になるため、至る所に目を配り、安全な生活が送れるよう配慮している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口の暖簾の色を変えたり、トイレ等の表示、混乱を起こす利用者に対しては、居室へ誘導するため廊下にテープを貼るなど工夫をし、混乱防止に努めている。		以前、間違っ入ってしまったばかりに、他の利用者から怒られたという事例があった。本人を不安や混乱・失敗を防ぐよう、これからも配慮していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候や天候によるが、広いウッドデッキに出て、歩行運動・体操、洗濯・布団干しなど利用者と職員が、一緒になって作業を行なえる空間として、日常的に活用している。		寝たきりの利用者も体調をみて、車椅子に移乗し、ウッドデッキにて景色を眺めたり、日光浴などをし、気分転換を図っている。



V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは、認知症を患っている方であれば、誰でも平等に利用できるようになっていきます。

(地域密着型サービスですので、市や地域の方は優先になります。)

利用者に対しては、画一的な介護でなく、その方に合ったケアを心掛けています。たとえ、介護度が高く、車椅子や寝たきりの状態でも、その方を尊重し、誠心誠意、日々のお世話をさせていただきます。ご本人を中心に、家族と職員が力を合わせ支援してまいりたいと思います。

また、当グループホームは、医療法人が母体となっておりますので、医療面からのサポートが充実しており、大切なご家族を安心してお任せいただけます。

専門的分野に講師を迎えての、外部・内部研修会も定期的に行なわれ、現場職員の知識と技術の向上を目指し、日々努力しています。